

Brooklyn DAC+の活用(10)

—DSD 録音(5)—

1. はじめに

前報(9)に引き続き、DA-3000 により DSD 録音を行います。Brooklyn DAC+の導入結果を記録するため、今回、AES 入力からの DSD 録音を実施します。

2. Brooklyn DAC+を使用した録音と試聴方法

録音の経路は次のとおりです。

Philips LHH1001→DACU-500→CRV-555 (GPS-777) →Brooklyn DAC+
→P&G フェーダー→TASCAM DA-3000

LHH1001 からは RCA 同軸デジタルケーブルで引き出し、CRV-555 からは AES ケーブルで引き出して、Brooklyn DAC+の AES 入力端子に入力します。

Brooklyn DAC+には ABS-7777DA-3000 経由で 44.1KHz のクロックを入力しています。

なお、CRV-555 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力します。

録音は DA-3000 の設定を 5.6MHzDSF に設定し、ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。

再生は、録音音源を fidata にコピーし、fidata から USB 経由で Brooklyn DAC+に送り込んで再生します。

使用したソースは、オーディオ資料室の DSD 録音使用盤に掲載しています。

3. Brooklyn DAC+の試聴結果元の

元の LHH1001 からの CD のストリーミング再生は、LHH1001 のアナログライクな闊達な音ですが、それと比べて、DSD 録音したものは、LHH1001 の雰囲気を残しながら DSD らしい滑らかな音になります。

今回録音した元音源の CD は、前報(8)と同じものを使用しましたが、前報(8)の fidata 経由の CD ドライブからの CD の録音と比べて、アナログライクな LHH1001 の雰囲気が残っており、CD ドライブからの CD の録音の方は、より切れ味の良い音です。

4. まとめ

Philips LHH1001 から CRV-555 経由で Brooklyn DAC+の AES 入力で DSD 録音したものは、GPS-777 のクロック入力や DACU-500 などの効果で、若干雰囲気は異なりますが、fidata 経由の CD の録音と比べてもそんな色のないものでした。

以上